



**ZERO**

2020年6月期  
決算説明資料  
(2019年7月~2020年6月)

2020年8月6日  
株式会社ゼロ 代表取締役社長  
北村 竹朗

# ◆ 目次

---

## ① 2020年6月期の振り返り

- 2020年6月期の国内自動車総市場
- 2020年6月期の業績概要と業績分析

## ② 2021年6月期の展望

- 2021年6月期における新型コロナウイルスの影響
- 2021年6月期の業績予想と位置付け

# ◆ 目次

---

## ① 2020年6月期の振り返り

- 2020年6月期の国内自動車総市場
- 2020年6月期の業績概要と業績分析

## ② 2021年6月期の展望

- 2021年6月期における新型コロナウイルスの影響
- 2021年6月期の業績予想と位置付け

## 新車販売台数（登録車・軽自動車）前年比

出典：自販連、全軽自協



## 中古車登録台数（登録車・軽自動車）前年比



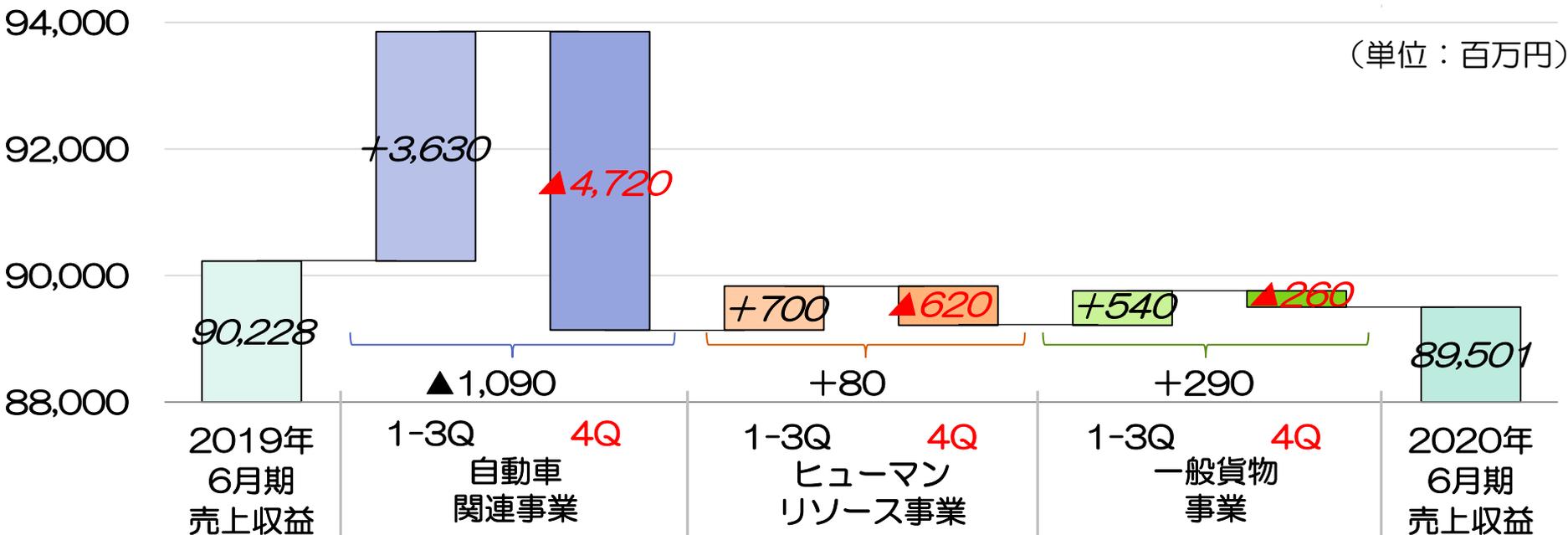
(単位：百万円)	2019年 6月期 実績	2020年 6月期 業績予想	2020年 6月期 実績	業績予想差	前年差
売上収益	90,228	95,000	89,501	▲5,499	▲727
営業利益 (営業利益率)	3,305 (3.7%)	4,000 (4.2%)	3,675 (4.1%)	▲325	+370
税引前利益	3,294	3,980	3,679	▲301	+385
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,658	2,300	2,374	+74	+716
基本的1株あたり 当期利益	99.74円	138.33円	142.30円	+3.97円	+42.56円
年間配当金	24.9円	34.6円	35.6円	+1.0円	+10.7円

(単位： 百万円)	2019年 6月期 1-3Q	2020年 6月期 1-3Q	前年差	前年比	2019年 6月期 4Q	2020年 6月期 4Q	前年差	前年比
売上収益	66,944	71,809	+4,865	107.3%	23,284	17,692	▲5,592	76.0%
営業利益 (営業利益率)	2,175 (3.2%)	3,439 (4.8%)	+1,264	158.1%	1,129 (4.9%)	236 (1.3%)	▲893	20.9%
親会社所有者 当期利益	888	2,274	+780	256.1%	770	100	▲670	13.0%

## 2020年6月期 4Qの概況

- 車両輸送&自動車周辺事業：新車販売台数の落ち込みを受けて、車両輸送と納車前整備点検の受託台数が大幅に減少。
- 中古車輸出事業：マレーシアでロックダウンが発令された影響を受け、輸出台数激減。
- ヒューマンリソース事業：送迎請負先の事業休止と派遣先の雇い止め影響を受けて、売上高減少。
- 一般貨物事業：タイでロックダウンが発令された影響を受け、CKD事業梱包台数減少。

# 2020年6月期の振り返り ④ 業績分析（セグメント別売上収益） 7



自動車関連事業 65,766 → 64,675

ヒューマンリソース事業 18,527 → 18,603

一般貨物事業 5,935 → 6,222

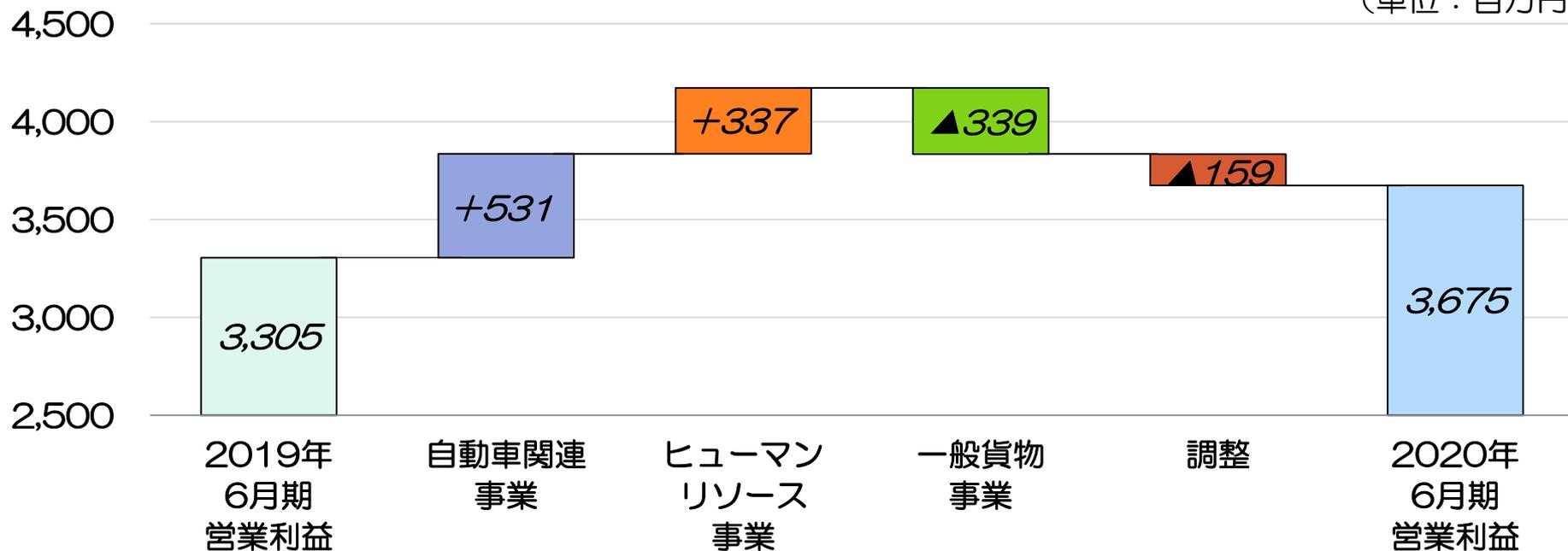
ヒューマンリソース事業	1-3Q	4Q	通期
送迎事業	+380	▲290	+90
派遣事業	+120	▲210	▲90
空港関連事業	+200	▲120	+80
合計	+700	▲620	+80

自動車関連事業	1-3Q	4Q	通期
車両輸送事業	+2,380	▲2,690	▲310
自動車周辺事業	▲450	▲500	▲950
中古車輸出事業	+1,700	▲1,530	+170
合計	+3,630	▲4,720	▲1,090

一般貨物事業	1-3Q	4Q	通期
運輸倉庫事業	+90	▲60	+30
港湾荷役事業	▲130	+50	▲80
CKD事業	+580	▲250	+330
合計	+540	▲260	+290

# 2020年6月期の振り返り ⑤ 業績分析（セグメント別営業利益） 8

（単位：百万円）



## 自動車関連事業

4,894 → 5,426

- ・ 輸送ブロック会社の損益改善 +400
- ・ 輸送機材の減価償却期間見直し影響 +320
- ・ 燃料単価の下落 +240
- ・ 自動車周辺事業の減収に伴う減益 ▲300
- ・ 中古車輸出事業における貸倒引当金計上 ▲130

## 一般貨物事業

150 → ▲188

- ・ 運輸、倉庫事業の増収に伴う増益 +10
- ・ 港湾荷役事業の減収に伴う減益 ▲180
- ・ CKD事業の立ち上げに関わる費用 ▲170

## ヒューマンリソース事業

313 → 650

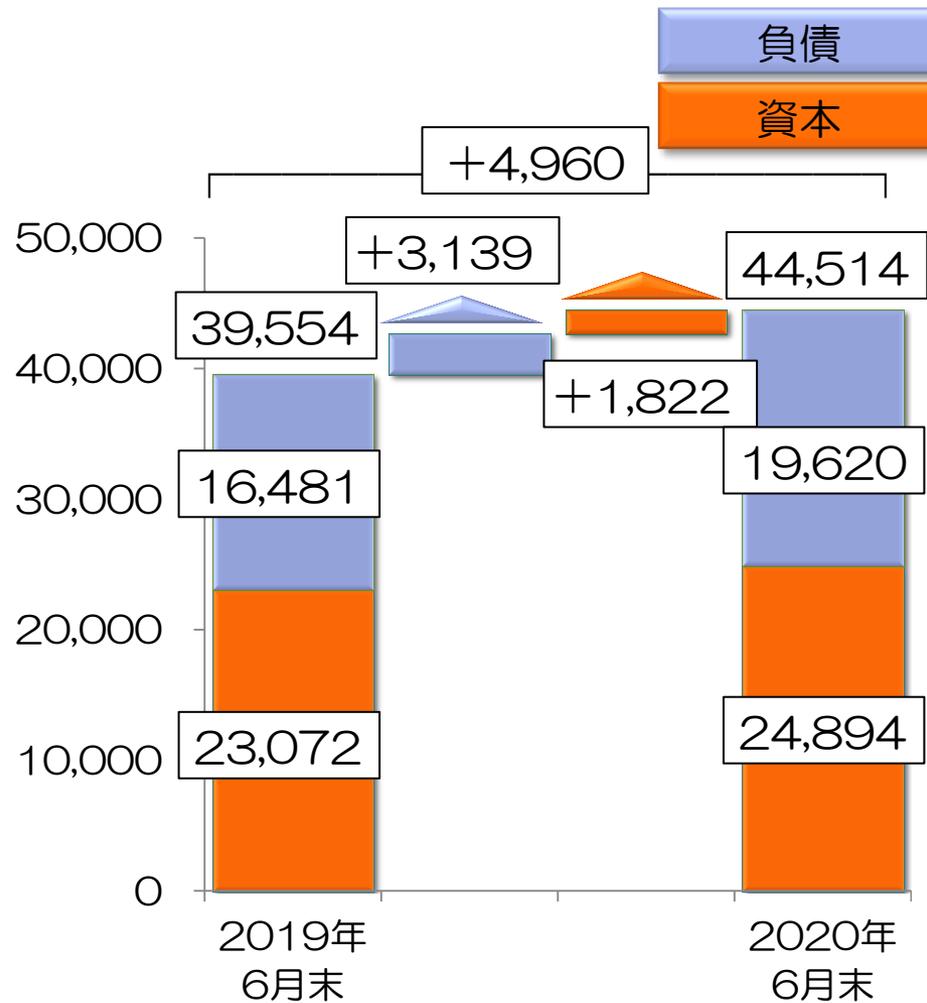
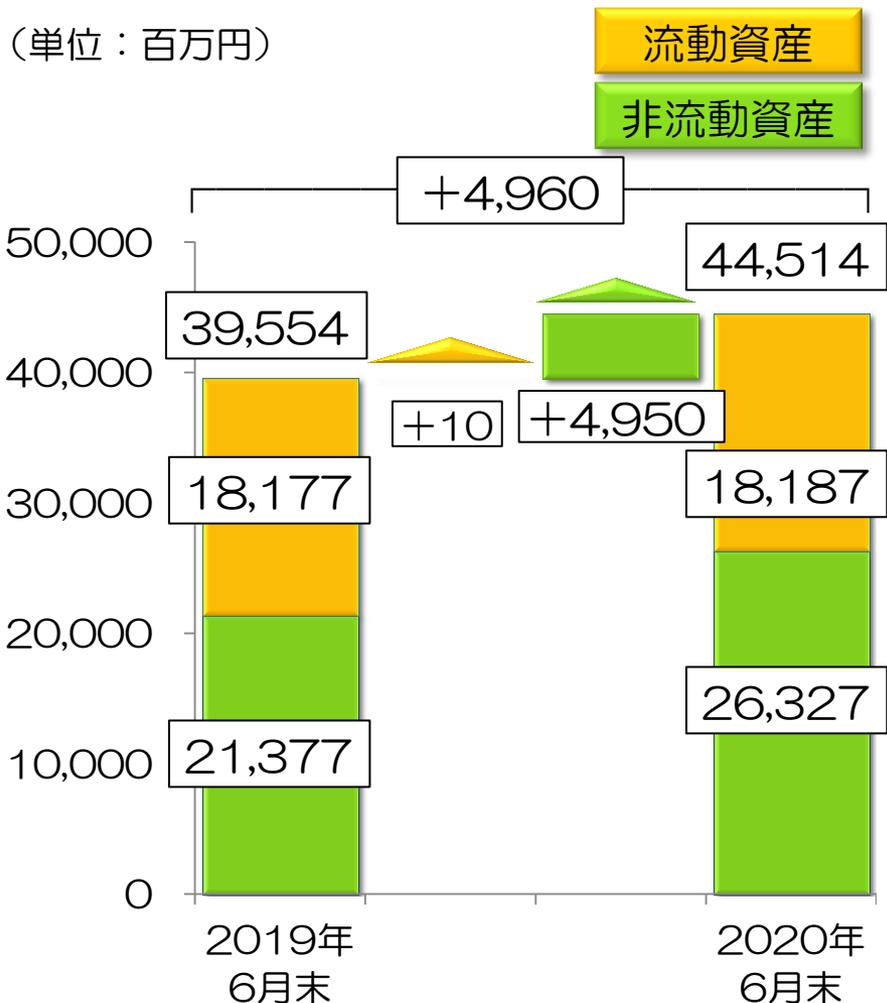
- ・ 昨年度の一過性求人広告費用からの回復 +290
- ・ 経費削減 +50

## 調整

▲2,053 → ▲2,212

- ・ 一般管理費増加 ▲160

(単位：百万円)



- 流動資産：現金増加、営業債権減少
- 非流動資産：有形固定資産\*増加

- 負債：リース債務\*増加
- 資本：利益剰余金増加

\*IFRS16号（新リース基準）適用により、主に不動産賃貸借契約について、一定期間の賃借料総額相当分（計4,624百万円）を使用権資産（非流動資産）/リース債務（負債）として、バランスシートに計上

(単位：百万円)

	2019年 6月期	2020年 6月期	増減額	コメント
<b>営業CF</b>	1,033	6,538	+5,505	
当期利益	1,663	2,387	+724	当期利益の増加
減価償却費および償却費	1,708	4,188	+2,480	IFRS16号 適用影響
営業債権の増減額	▲1,992	345	+2,337	中古車輸出債権の減少
その他	▲346	▲382	▲36	
<b>投資CF</b>	▲2,402	▲2,067	+335	
有形固定資産等の取得	▲2,195	▲1,889	+306	
その他	▲207	▲178	+29	
<b>財務CF</b>	▲438	▲3,157	▲2,719	
リース債務の支払	▲563	▲3,209	▲2,646	IFRS16号 適用影響
その他	125	52	▲73	

## ◆ 目次

---

### ① 2020年6月期の振り返り

- 2020年6月期の国内自動車総市場
- 2020年6月期の業績概要と業績分析

### ② 2021年6月期の展望

- 2021年6月期における新型コロナウイルスの影響
- 2021年6月期の業績予想と位置付け

セグメント	事業	天気予想	コメント
自動車 関連事業	車両輸送事業 自動車周辺事業	1Q 	新型コロナウイルス影響からの回復期にあるが、増税前の駆け込み需要があった前年と比較して、自動車市場は大幅に落ち込むと想定。
		2Q 	引き続き新型コロナウイルス影響からの回復期にあり、増税の反動と自然災害の影響を受けた前年と同等の水準になると想定。
		3Q 	新型車の発売効果と新型コロナウイルスの影響を同時に受けた前年と同等の水準は維持すると想定。
		4Q 	新型コロナウイルスの影響が直撃した前年からは大幅に回復して、一昨年と同等の水準まで復活すると想定。
	中古車輸出事業		マレーシアロックダウンの後遺症により、上半期は厳しい状況。
ヒューマン リソース 事業	送迎事業		新型コロナウイルスの影響による解約が一部発生する見通し。
	派遣事業		4-6月に派遣先で雇い止めが発生。空港事業は通年厳しい見通し。
一般貨物 事業	運輸倉庫事業		新型コロナウイルスの影響で一部顧客の荷量が減少。
	港湾荷役事業		苅田港における自動車荷役・シャーシ荷役を中心に売上減少。
	CKD事業		タイの工場休止に伴い、梱包数量減少。

(単位：百万円)	2020年 6月期 実績	2021年 6月期 業績予想	前年差	前年比
売上収益	89,501	81,000	▲8,501	90.5%
営業利益 (営業利益率)	3,675 (4.1%)	3,600 (4.4%)	▲75	98.0%
税引前利益	3,679	3,580	▲99	97.3%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,374	2,300	▲74	96.9%
基本的1株あたり 当期利益	142.30円	137.84円	▲4.46円	96.9%
年間配当金	35.6円 内)中間：15.0円	34.5円 内)中間：15.0円	▲1.1円	96.9%

## 2021年6月期の位置付け

- 新型コロナウイルス感染症の拡大による閉塞感や停滞感から脱却して、足許の緩やかな回復軌道から発展軌道へ戻す。
- ウイルスとの「共生」に向けて、新しいワークスタイルの検討も含めて、ゼログループの力を結集して、21年度以降に向けた取り組みを推進する。
- 社会情勢や市場動向の変化に対応する持続的な成長シナリオ並びに事業ポートフォリオを構築する。



2021年10月 創立60周年